



# 上北圏域

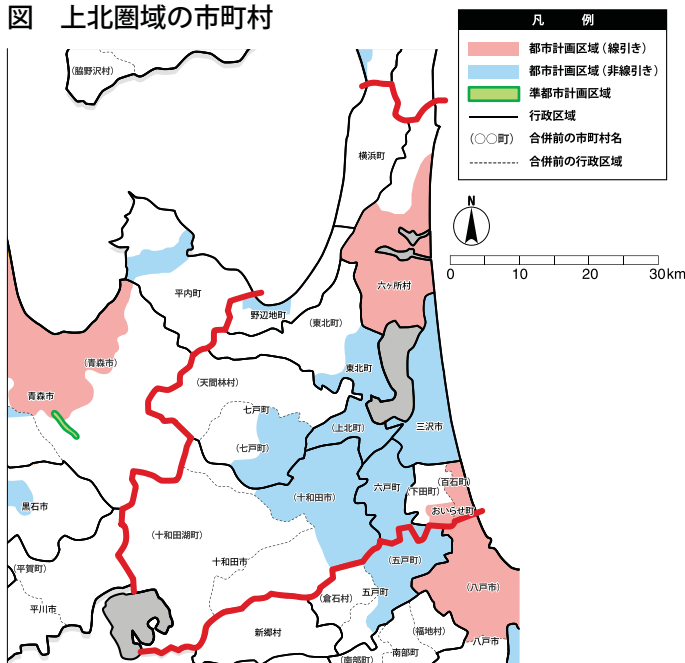
ネットワーク型都市構造をいかした自然美と生産力を誇る圏域

〔構成市町村〕 十和田市・三沢市・野辺地町・七戸町・六戸町・  
横浜町・東北町・六ヶ所村・おいらせ町(2市6町1村)  
※圏域別計画において、おいらせ町は三八・上北圏域両方に含まれます。

〔人口〕 215,589人  
(青森県全体の15.0%/平成17年国勢調査より)

〔面積〕 208,962ha(青森県全体の21.8%)

図 上北圏域の市町村



上北圏域は青森県の東部に位置し、十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町の2市6町1村により構成されています。人口は青森県全体の15.0%、面積は青森県全体の21.8%を占めています。

本圏域は十和田湖・奥入瀬溪流などをはじめ、八甲田山系などの美しい自然環境に恵まれています。地形の特徴として、全般に穏やかな丘陵地が多いことや、小川原湖、太平洋、陸奥湾などの豊かな水体系を有することが挙げられます。

圏域西部の十和田湖や八甲田山系を起点に太平洋や陸奥湾方向へ川が流れており、生活用水や農業用水として利活用されています。

かつては南部藩領となっており、城下町である七戸や商港の野辺地などが栄えていました。

昭和の大合併では4町村が合併し十和田市(当初は三本木市)が成立し、その後、平成の大合併により十和田市、七戸町、東北町、おいらせ町が誕生し、現在に至っています。

## I 上北圏域の特徴と課題

### (1) 農林水産業をはじめ産業のポテンシャルに恵まれた圏域

#### 特徴 1

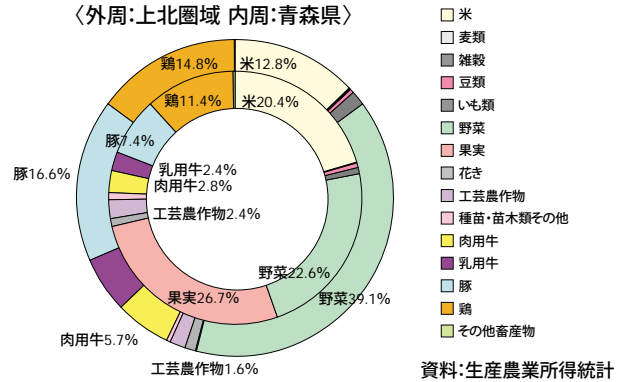
本圏域では第一次産業従業者の割合が比較的高くなっています。

県内一の産出額を誇る農業は、夏季にヤマセの影響で低温多湿及び日照不足となるため、長いもやんにくといった根菜類の一大産地が形成され、肉用牛などの畜産との複合化が進んでいます。

水産業では、陸奥湾のホタテや小川原湖のシジミ貝、太平洋のホッキ貝などが特産となっています。

図 平成18年農業産出額の品目別割合

〈外周:上北圏域 内周:青森県〉



#### 課題 1

県内一の産出額を誇る、農業の生産基盤の保全と整備が求められています。

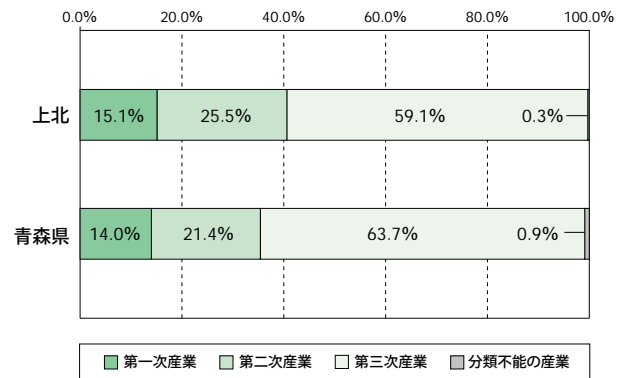
水産業は主に閉鎖性水域で行われているため、水質の保全が求められています。

#### 特徴 2

本圏域では、域内総生産額の44.8%を製造業が占め、この割合は圏域北部のむつ小川原開発の進展に伴い飛躍的に伸びています。特に、国家プロジェクトとして進められている原子燃料サイクル施設をはじめ、大規模な風力発電システムの立地など、隣接する下北圏域とともにエネルギー関連産業の展開が顕著です。

なお、六ヶ所村における工業専用地域内の生産・流通用地には比較的余裕があります。一方、十和田市・三沢市では工業用地がほぼ埋まっています。

図 平成17年産業分類別従業者数の割合



#### 課題 2

国家プロジェクトと連動させながら、次世代エネルギーをリードする産業クラスターの形成を通じ、基幹産業の強化を図ることが期待されています。

#### 特徴 3

圏域南部は比較的平坦な地形で、道路網が高い密度で配置されています。圏域北部では道路密度は高くありませんが、むつ小川原開発を背景に整備が進んだ幹線道路が配置されています。広域交通では、三沢空港やむつ小川原港がある他、平成22年12月には東北

新幹線七戸十和田駅が開業します。

現在は圏域内を相互に結ぶ高速道路はありませんが、上北横断道路や下北半島縦貫道路の整備が進められています。

また、六ヶ所村に国際核融合エネルギー研究センターの立地により、国内外の技術者交流がさらに盛んになると見込まれます。

課題 3

各種産業の発展のため、上北横断道路や下北半島縦貫道路の整備が求められています。また、産業集積が進むつ小川原開発地区と高速道路・港湾などを結ぶ交通網の充実強化が求められています。

さらに、先端科学技術に関わる国内外の技術者交流の基盤として、空港・新幹線アクセスの向上が求められています。

凡 例	
	国道
	主要地方道
	広域農道など
	高規格幹線道路
	高規格幹線道路(整備・計画中)
	JR線
	JR線以外の鉄道
	新幹線
	新幹線(整備中)
	行政区域
	合併前の市町村名
	合併前の行政区域
	役場・市役所

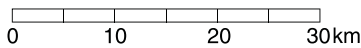
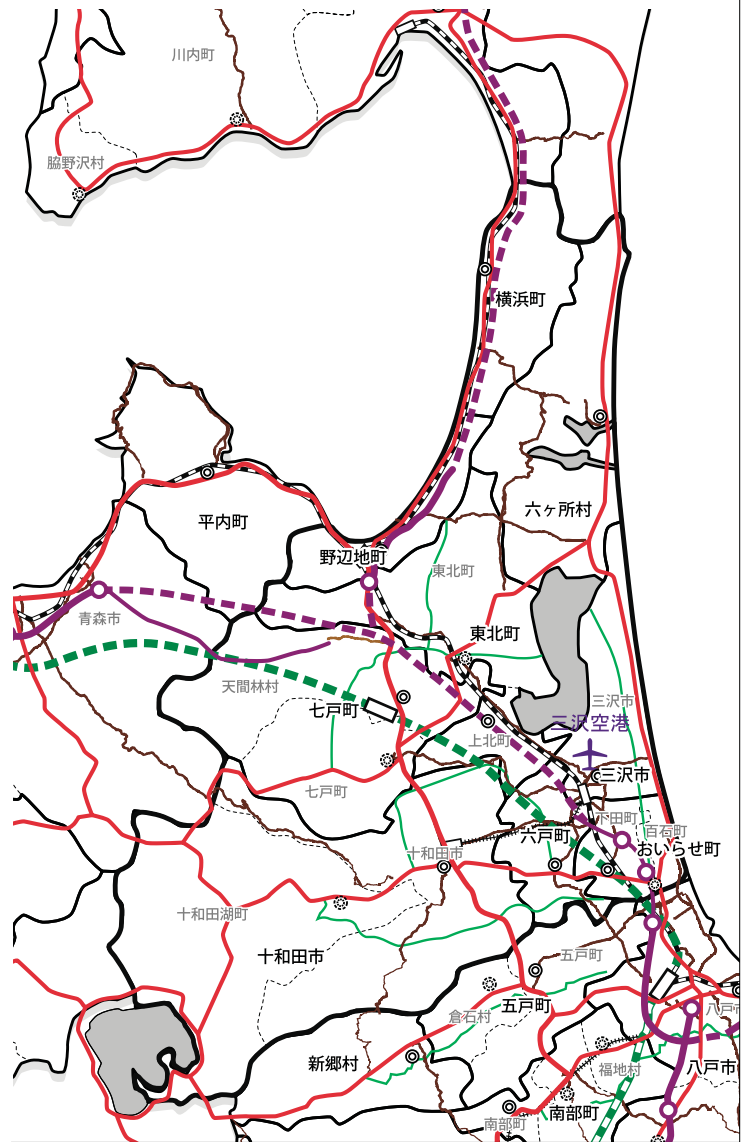


図 交通網の状況



(2) 十和田市・三沢市を中心に中小規模の都市が都市機能を分担・連携する圏域

特徴 1

本圏域では、十和田市・三沢市を中心に都市的サービスが供給されています。しかし、両市とも大規模都市ほどの高次都市機能を備えておらず、圏域面積が県内一広いこともあり、その受益範囲は圏域南部にとどまり、圏域の北部では野辺地町・横浜町・六ヶ所村がそれぞれ独立性を有する小圏域を構成しています。そして、両市の都市機能を超える高次都市機能については、圏域南部では八戸市、圏域北部では青森市に依存しており、本圏域での暮らしは圏域外の大規模都市などとの結びつきが不可欠となっています。

また一方で、本圏域は単純な階層構造ではとらえきれない、多核構造という特徴を有します。おいらせ町には圏域を越えて集客する大規模商業施設がある他、七戸町では新幹線駅開業と広域道路網の整備によって広域交通ネットワークの結節機能を担うなど、機能別に異なる中心地が分布しています。しかし多核構造的な中小都市群の相互関係は、計画的な連携関係というよりはむしろ競争関係によって築かれたという側面も有しており、既存商店街の衰退や施設稼働率の低さといった問題も引き起こしています。

課題 1

高齢化社会・人口減少社会においても都市的サービス網を維持できるよう、充実した交通網をいかにしながら、中小規模の都市群が協力して都市機能を分担・連携する圏域の形成が求められています。

特徴 2

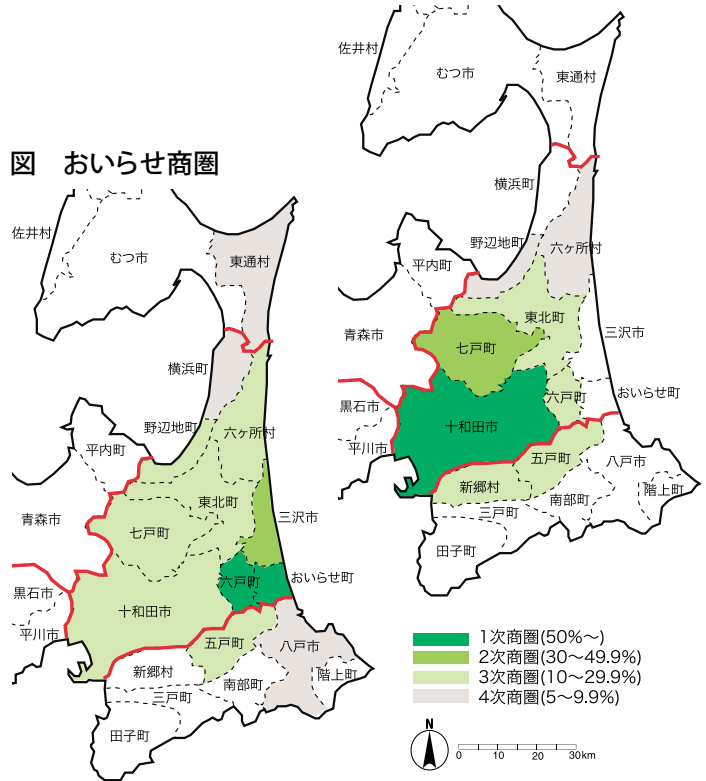
十和田市は、中核的な都市機能として広域行政、商業・業務、教育・文化、医療機能などが集積し、また三沢市は空港を有し、商業・業務、教育・文化、交流機能などが集積していることから、中心的役割分担を担っています。しかし、両市は中心市街地の空洞化が進んでおり、特に中心市街地における小売業商品年間販売額の落ち込みが激しくなっています。

その他の都市については、七戸町は新幹線七戸十和田駅の設置により、本圏域及び下北地方の玄関口としての役割を担うと見込まれる他、十和田・三沢両市から離れた圏域北部においては、野辺地町が広域的な医療・教育機能を補完しています。また、おいらせ町の百石地区など、地域に根ざした商店街が身近なサービス供給拠点として機能しています。

課題 2

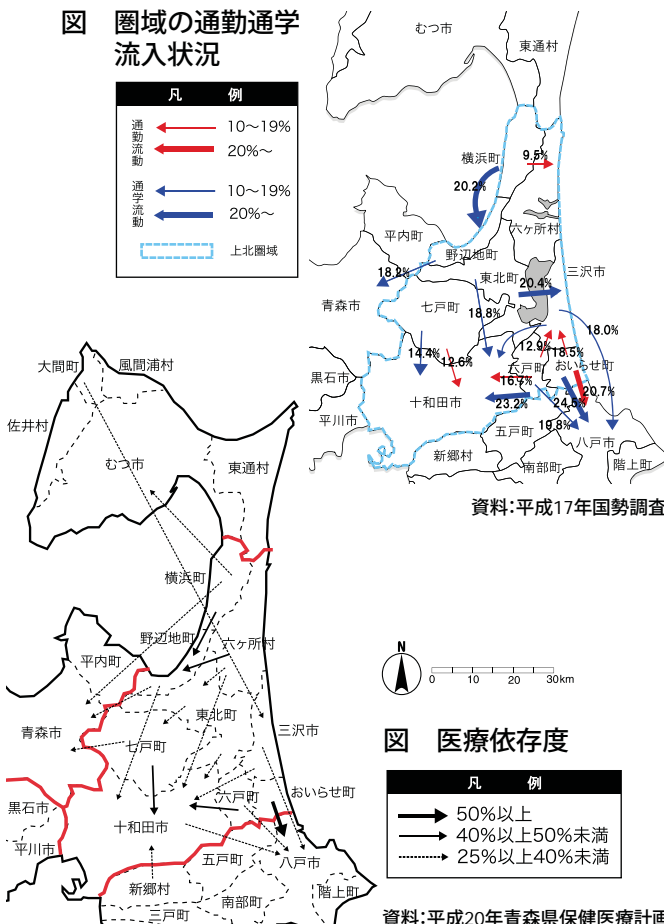
十和田市や三沢市などの中心市街地の再生や、それぞれの市街地の特徴をいかした拠点性の維持が求められています。

図 十和田商圏



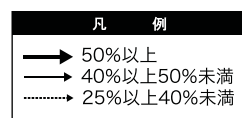
資料:消費購買動向による商圏調査報告書 (平成18年青森県・青森県商工会議所連合会・青森県商工会連合会)

図 圏域の通勤通学流入状況



資料:平成17年国勢調査

図 医療依存度



資料:平成20年青森県保健医療計画

特徴 3

大規模都市を持たない本圏域では、高度医療などの高次都市サービスについては他圏域の都市に依存せざるを得ません。したがって、八戸市や青森市への交通アクセスは他圏域にも増して重要な意味をもっていますが、高規格道路網は十分に整備されておらず、特に八戸市、十和田市、三沢市といった主要都市間では交通量が多く、円滑な移動性確保の面で課題があります。

鉄道では東北新幹線の延伸に伴い、並行在来線やそれと接続する大湊線、十和田観光電鉄の利便性の低下が懸念されています。

課題 3

他圏域の大規模都市にも依存しながら、複数の都市が機能を分担・連携しあう圏域であることから、圏域間を結ぶ高規格道路網や新幹線の整備とともに、高齢者や高校生など交通弱者の移動手段確保の観点から、並行在来線をはじめとする地域交通の維持など、市町村間の交通ネットワークの維持、充実が課題となっています。

### (3) 十和田湖や八甲田山系など雄大な自然に恵まれた圏域

特徴  
1

圏域の西部に奥羽山脈が走り、標高1,000mから1,500mの山岳地帯を形成しています。圏域の大部分を森林原野が占め、高瀬川、奥入瀬川などの河川、及び小川原湖などの湖沼に沿って平野が開けています。山岳地帯から太平洋まで変化に富んだ地形特性を持つことから、景勝の溪流や湖などの観光資源に恵まれています。

ラムサール条約に登録され、希少種オオセッカの世界的な繁殖地の仏沼があります。

圏域内の自然公園としては、十和田市西部の十和

田湖を中心とした十和田八幡平国立公園があります。

広域的な拠点となる大規模公園として、十和田市街地近郊に高森山総合運動公園、三沢市街地近郊に三沢市民の森、六ヶ所村市街地近郊に市柳総合公園があります。



奥入瀬溪流(青森県HP)



小川原湖(青森県HP)

課題 1

雄大な自然環境の保全が求められています。  
自然美をいかした滞在型観光の推進などが求められています。

特徴  
2

圏域西部の十和田湖や八甲田山系を起点に太平洋や陸奥湾方向へ奥入瀬川や高瀬川などが流れており、生活用水や農業用水として利活用されています。

課題 2

圏域の豊かな水環境を保全し、生活水準の向上を図る排水対策や、都市及び地域住民に憩いを提供する水辺空間としての活用が求められています。

特徴  
3

八甲田連峰、十和田湖、奥入瀬溪流や東北最大の汽水湖小川原湖などの優れた自然景観が圏域のシンボルとなっています。

圏域中央から東部に広がる田・畑・採草放牧地・牧場など広大な農地については、農産物の生産の場としてだけでなく、地域固有の景観を形成する要素となっています。

城下町として形成された七戸町のまち並み、十和田市の官庁街、三沢市のアメリカ村など、圏域の多様な歴史と文化を象徴する景観がみられます。

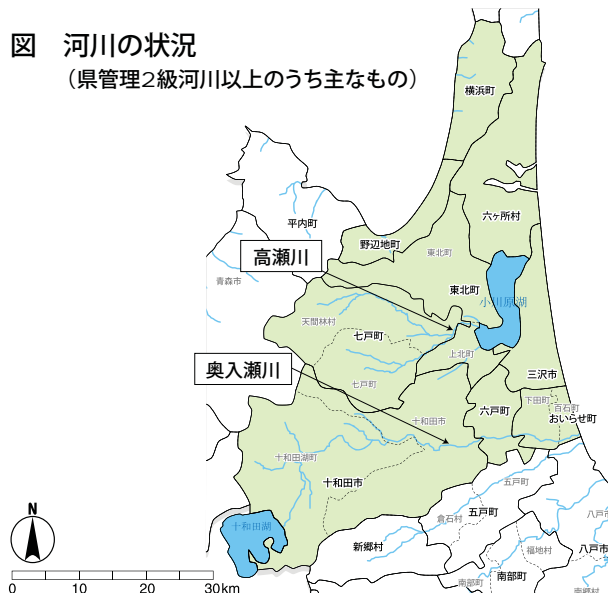
課題 3

無秩序な市街化の抑制策を講じながら、八甲田連峰や小川原湖などの象徴的な景観や、牧場などの田園景観、圏域の歴史・文化を伝えるまち並み景観といった既存資源の保全と活用が求められています。

図 上北圏域の自然資源



図 河川の状況  
(県管理2級河川以上のうち主なもの)



## II 圏域の将来像

### ネットワーク型都市構造をいかした自然美と生産力を誇る圏域

冷涼な気候と緩やかな地形を背景に、近代的な農地開拓や産業開発などが盛んです。様々な大規模開発プロジェクトは、圏域経済の基盤を形成し、開発地区周辺では発展をもたらす一方で、圏域構造の変動をも与えてきました。今後は、分散している中小都市群が適切に都市機能を連携・分担しながら、大規模開発を適切にコントロールし、今ある自然美と生産力、そして都市機能をいかして発展する、ネットワーク型都市圏域の形成をめざします。

このような将来像を(1)産業、(2)生活、(3)環境の各側面に分け、そのあるべき空間構造を整理すると、以下の(1)～(3)のように描かれます。

#### (1) 高いポテンシャルをいかした生産・流通圏域

エネルギー産業クラスターを北部に配置するとともに、十和田市と三沢市を中心とした地区では、既存市街地とバランスのとれた生産・流通用地を配置し、産業拠点の形成をめざします。また、風土をいかした農林業生産基地の形成をめざします。

圏域内の産業拠点、むつ小川原港、八戸港を結ぶ海岸に沿った物流軸や、圏域内外を南北に結ぶ骨格的な交通軸を強化するとともに、インターチェンジなどの結節点においては物流拠点の形成をめざします。

#### (2) 安心・便利に暮らせる機能連携圏域

圏域のどこからでも都市的サービスを受けられるよう、地形・交通条件や機能別の受益圏の大きさに配慮しながら、十和田・三沢両市の中心市街地を中心とした多数の拠点地区が都市機能を分担しあう、多角的なサービス網の形成をめざします。

多角的なサービス網を安心・便利に活用できるよう、拠点地区を有する市町村間や、より高次都市機能を有する青森市・八戸市とのアクセス性の向上をめざします。

#### (3) 豊かな水環境と自然美をいかす圏域

農山漁村やその周辺の林地などを保全するとともに、滞在型保養の展開などに資する、牧場などの特徴ある景観の保全をめざします。

災害の防止や、奥入瀬川、高瀬川、小川原湖、陸奥湾などに代表される豊かな水環境を保全するとともに、都市的土地利用が進む十和田・三沢両市及び六ヶ所村周辺においては広域的に利用できる大規模公園を配置するなど、自然に親しめる市街地環境の形成をめざします。

広域的な観光・交流を促進するため、八甲田連峰や十和田湖、小川原湖などの圏域を象徴する自然景観の保全をめざします。

## III 都市づくりの方針

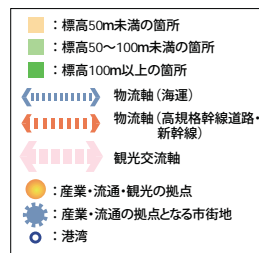
### (1) 「高いポテンシャルをいかした生産・流通圏域」

#### 【土地利用に関する視点】

- むつ小川原開発の展開による研究開発・エネルギー産業などの拠点形成
- 十和田市と三沢市を中心とした地区における生産・流通用地の計画的配置
- 物流拠点として重要港湾むつ小川原港の整備と利活用
- 農林水産業を支える農地や林地などの保全

#### 【都市施設の整備に関する視点】

- 骨格的な物流軸として、上北横断道路や下北半島縦貫道路の整備や国道4号、国道338号などを軸とした広域的な道路網の強化
- 上北横断道路、下北半島縦貫道路、国道4号などの結節機能の強化
- ビジネスにおける交流機会の増大と広域観光の展開に資する七戸十和田駅や三沢空港を起点とした広域交通ネットワークの強化



## (2) 「安心・便利に暮らせる機能連携圏域」

### 【土地利用に関する視点】

- 都市機能の市町村間での分担・連携による適正な配置
- 中心都市である十和田市及び三沢市における広域的な都市機能の集積と中心市街地における市街地の整備及び商業などの活性化
- 野辺地町における教育・医療分野を中心とした補完的な都市機能の集積

### 【都市施設の整備に関する視点】

- 都市機能集積地と隣接市町村の連絡性を向上させる交通施設の整備
- 青森市や八戸市などが供給する高次都市機能を受容できる圏域間交通ネットワークの充実強化
- 十和田市、三沢市、八戸市を結ぶ主要都市間ネットワークの充実
- 並行在来線の維持など、地域公共交通の維持と利便性の向上



## (3) 「豊かな水環境と自然美をいかす圏域」

### 【土地利用に関する視点】

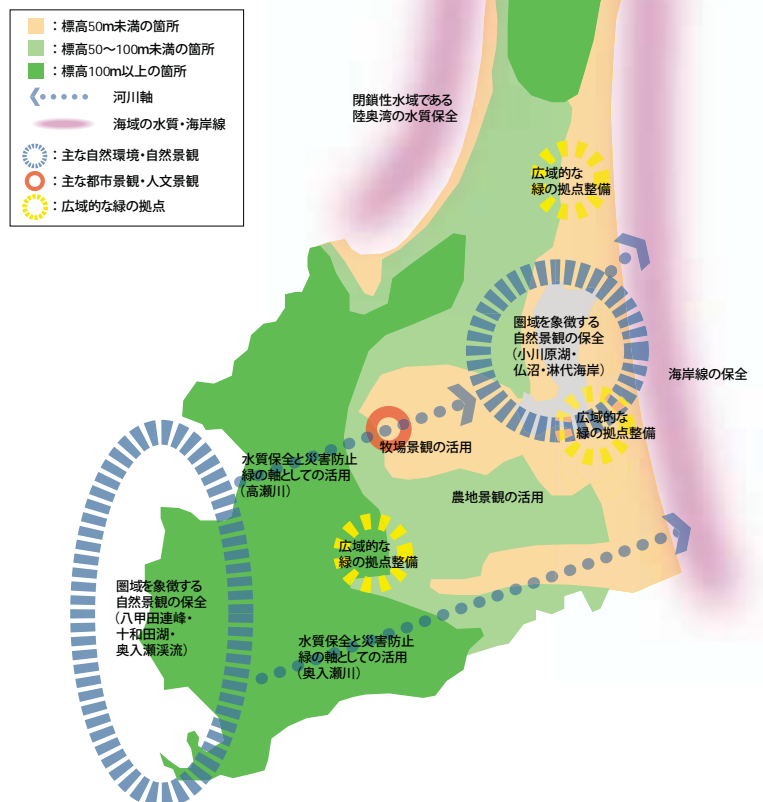
- 集落や農地を取り巻く林地の保全と活用

### 【都市施設の整備に関する視点】

- 新幹線開通に伴う開発や市街化の進展から河川の水質保全を図るため、流域市町村が連携した公共下水道などの効率的な整備
- 閉鎖性水域である陸奥湾の水質保全
- 奥入瀬川や高瀬川などを軸とした、水辺環境の保全と親水性の向上

### 【自然的環境の整備または保全に関する視点】

- 圏域の自然美や豊かな生態系を象徴する自然として、八甲田連峰、十和田湖や奥入瀬渓流、小川原湖や仏沼、海岸線などの保全
- 圏域中央から東部にかけて広がるのびやかな農地景観の保全と活用
- 滞在型保養を推進する舞台として、牧場景観などの特徴ある景観の保全と活用



## IV 圏域としての土地利用マネジメントのあり方

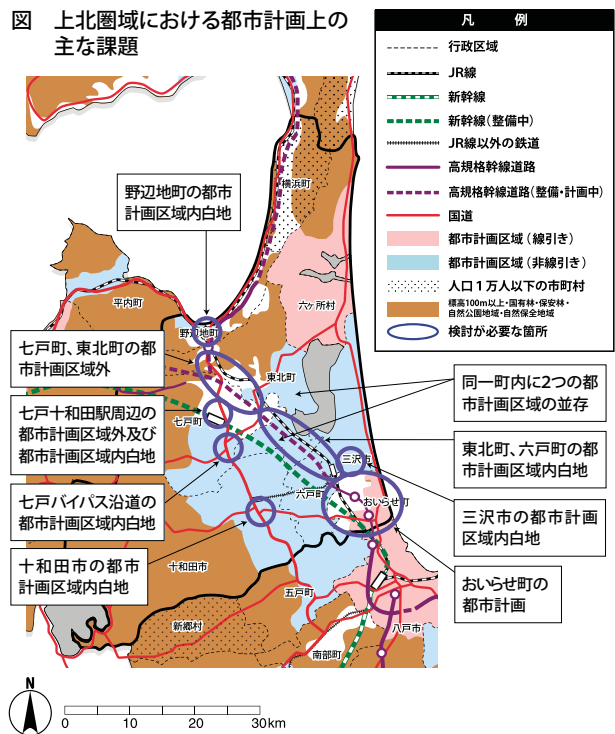
### 課題

- ▶ おいらせ町は上北圏域ですが、三八圏域の八戸市と同一の都市計画区域であることから、2つの圏域に属している状況にあります。また、おいらせ町は都市計画区域内・外の両方があり、三沢市の市街地に隣接する都市計画区域外では市街化が進んでいます。このため、おいらせ町としての圏域の考え方や土地利用マネジメントのあり方について検討が必要です。
- ▶ 東北町では、旧上北町と旧東北町の合併により、同一町内に2つの非線引き都市計画区域が並存しているため、都市計画区域の再編について検討が必要です。  
東北新幹線七戸十和田駅周辺の都市計画区域外及び非線引き都市計画区域白地地域では、新幹線駅開業に伴い開発ポテンシャルが高まると予想されるため、適切な土地利用マネジメントが必要です。
- ▶ 上北横断道路の整備によりインターチェンジの予定地となる七戸町、東北町の都市計画区域外及び東北町、六戸町の非線引き都市計画区域白地地域では、将来交通利便性が向上し、周辺環境にそぐわない施設が立地するおそれがあることから、建築制限などによる適切な土地利用が必要です。
- ▶ 十和田市東部の国道沿いや、三沢市の市街地南東部の非線引き都市計画区域白地地域では、大型店舗の立地がみられるため、農地の保全や周辺環境との調和の観点から適切な土地利用のコントロールが必要です。
- ▶ 野辺地町の非線引き都市計画区域白地地域では、用途地域を挟んで東西の主要道路沿道に商業施設が点在して

ます。現在のところ、さらなる開発の動きはみられませんが、農地の保全や周辺環境との調和の観点から適切な土地利用のコントロールが必要です。

- ▶ 七戸町の非線引き都市計画区域白地地域では、国道4号七戸バイパスの整備によって沿道開発のポテンシャルが高まりつつあり、周辺環境にそぐわない施設が立地するおそれがあることから、建築制限など適切な土地利用コントロールが必要です。

図 上北圏域における都市計画上の主な課題



### 検討すべき項目

- おいらせ町においては、町の実態に即した土地利用マネジメントを実現するため、下田地区北部への都市計画区域の拡大を含め、都市計画区域などの見直しや土地利用コントロールの手法を検討します。
- 上北、東北の都市計画区域は、市町村合併や地理的条件など、現状の市街地の一体性を鑑みた都市計画区域の統合を検討します。
- 東北新幹線七戸十和田駅の開業によって、駅周辺は本圏域及び下北圏域の交通拠点としての役割が期待されることから、玄関口としてふさわしい機能と景観を備えるため、都市計画区域の拡大の他、交通関連などの業務系用途を主体とする土地利用の誘導を検討します。

- 上北横断道路の整備によるインターチェンジの予定地周辺や国道4号七戸バイパス沿道の都市計画区域外及び非線引き都市計画区域白地地域においては、周辺環境との調和の観点から、今後の整備状況に応じた都市計画区域の拡大の検討や、特定用途制限地域の指定などを推進します。
- 十和田市東部の国道沿いや、三沢市の市街地南東部の非線引き都市計画区域白地地域では、農地の保全や周辺環境との調和の観点から、特定用途制限地域や地区計画などによる土地利用コントロールを推進します。
- 野辺地町の非線引き都市計画区域白地地域で、商業施設などの立地により周辺の良い環境の形成または保持が必要な地区などにおいては、農地の保全や周辺環境との調和の観点から特定用途制限地域の指定などを推進します。